

# 5歳児健診のフォローアップ体制のイメージ

資料1

吉永美子議員

## 概要

- 多くの市町村では、3歳児健診(法定健診)以降、就学時健診まで健診がない。乳幼児への切れ目のない母子保健の提供のため、社会性発達の評価、発達障害等のスクリーニング、健康増進を目的とした、**5歳児健診の標準化・体制整備が必要**。(4~6歳児健診について、公費負担を実施している自治体は15%(令和3年度母子保健課調べ))
- 特別な配慮が必要な児に対して**早期介入を実施**することで、**保護者の課題への気づきや生活への適応が向上**する可能性が指摘されており、**5歳児健診により学童期の不登校発生数が減少**したという研究結果もある。
- 5歳児健診において所見が認められた場合に、**必要な支援につなげる地域のフォローアップ体制が重要**。

子ども家庭庁HPより抜粋

## 5歳児健診

令和5年度研究班で健康診査票・問診票を作成し、関係団体に意見照会・成育医療等分科会で議論の上、自治体に周知。

### 問診・診察・評価

- ・ 情報集約(過去の健診結果、家庭環境、保育所情報等)
- ・ 発達等の評価
- ・ 困り感の把握
- ・ 保護者への説明 等

#### 【健診に関わる職種の例】

医師、保健師、心理職、保育士、教育職、作業療法士・運動指導士、言語聴覚士 等

### 専門相談

#### 保護者との共有

- ・ 健診後の不安の傾聴
- ・ 保護者の**気づき**を促す
- ・ 多職種による助言

#### 健診後カンファレンス

多職種による評価、支援の必要性の検討

## 地域のフォローアップ体制

地域のリソースを使った支援体制(受け皿)を構築



## 地域のフォローアップ体制に係る課題

- **医療のキャパシティ強化** ⇒ 発達障害の診察ができる医師の養成、医療機関の体制強化。診療報酬についても別途検討
- **福祉との連携強化** ⇒ 児童発達支援センターと母子保健の連携強化、福祉の支援体制強化(障害報酬を含む)
- **教育との連携強化** ⇒ 保育園、幼稚園、学校等、教育委員会等との情報共有、保健・医療・福祉と連携した個別の支援・配慮



# ドゥーラサポートの要素

資料2

吉永美子議員

東京大学 福澤(岸)利江子助教講演資料より抜粋

母親が豊かな人間関係を  
築くためのサポート

情報を  
上手に使う  
サポート

体を  
良い状態に  
保つための  
サポート

心を  
良い状態に保つための  
サポート  
(エモーショナルサポート)

常に大事にする  
常に味方である

家事・育児の  
コツを伝える・  
手伝う

医学的な

- 検査
- 診断
- 治療

医療的

ドゥーラは  
医療行為は  
しない

非医療的サポートのすべて  
=ドゥーラサポート



# 認知症施策推進基本計画の概要

資料3

吉永美子議員

【位置付け】共生社会の実現を推進するための認知症基本法（令和5年法律第65号。以下「基本法」という。）に基づく国の認知症施策の基本計画。これに基づき、地方自治体は推進計画を策定（努力義務）。

## 前文 / I 認知症施策推進基本計画について / II 基本的な方向性

厚生労働省HPより抜粋

- 基本法に明記された共生社会の実現を目指す。
  - 認知症の人本人の声を尊重し、「新しい認知症観」※に基づき施策を推進する。  
※①誰もが認知症になり得ることを前提に、国民一人一人が自分ごととして理解する。②個人としてできること・やりたいこと  
があり、住み慣れた地域で仲間と共に、希望を持って自分らしく暮らすことができる。
- ⇒ ①「新しい認知症観」に立つ、②自分ごととして考える、③認知症の人等の参画・対話、④多様な主体の連携・協働

## III 基本的施策

- 施策は、認知症の人の声を起点とし、認知症の人の視点に立って、認知症の人や家族等と共に推進する。
- ⇒ 以下の12項目を設定：①国民の理解、②バリアフリー、③社会参加、④意思決定支援・権利擁護、⑤保健医療・福祉、⑥相談体制、⑦研究、⑧予防、⑨調査、⑩多様な主体の連携、⑪地方公共団体への支援、⑫国際協力

## IV 第1期基本計画中に達成すべき重点目標等

- 次の4つの重点目標に即した評価指標を設定：①「新しい認知症観」の理解、②認知症の人の意思の尊重、③認知症の人・家族等の地域での安心な暮らし、④新たな知見や技術の活用
- 評価指標は、重点目標に即して、プロセス指標、アウトプット指標、アウトカム指標を設定

## V 推進体制等

- 地方自治体において、地域の実情や特性に即した取組を創意工夫しながら実施
- 地方自治体の計画策定に際しての柔軟な運用（既存の介護保険事業計画等との一体的な策定など）
- ①行政職員が、認知症カフェ等様々な接点を通じて、認知症の人や家族等と出会い・対話する、②ピアサポート活動や本人ミーティング等の当事者活動を支援する、③認知症の人や家族等の意見を起点として、施策を立案、実施、評価する。



**認知症でも周囲の適切なサポートがあれば、安心して暮らせます**

私たちは周囲の状況を目や耳などを使って情報として受け取り、理解しています。普段あまり意識していませんが、私たちは受け取った情報を記憶にとどめ、必要に合わせてそれを思い出し、利用しながら日常生活を送っています。話すことや、着替え、食事、テレビを見ることも、私たちに言葉や体の動かし方、生活についての記憶があるからこそできているのです。

一方、年齢を重ねると情報を受け取りにくくなって、周囲の状況がわからなくなり、さらに記憶に問題が生じて日常生活に支障が出る場合があります。これが「認知症」です。しかし、周囲の人々がうまくサポートできれば、ご本人は安心して暮らすことができます。



**「ユマニチュード」で届けたいサポートを受け取ってもらえます**

福岡市では認知症の人とのコミュニケーションをスムーズにするケアの方法として、ユマニチュードを普及促進しています。ユマニチュードは40年以上前にフランスで生まれたもので、相手に届けたいサポートをうまく受け取ってもらうための具体的な技術と「なぜそれを行うのか」という考え方(哲学)からできています。技術と哲学を通じて「あなたのことを大切に思っています」と伝え続けることが、介護がうまくいくための重要な鍵なのです。



**介護の技術 1: 「あなたのことを大切に思っています」と伝えるための4つの柱**

**「見る」**

見ることで相手に伝わるメッセージがあります。正面から見ることで正直さを、水平に見ることで平等であることを、近く、長く見ることで親密さを相手に届けることができます。



**「話す」**

介護をするときにはつい無言でテキパキと進めがちですが、「あなたのことを大切に思っています」と伝えるためには、その場に言葉をあふれさせる必要があります。ゆっくりとした穏やかな言葉は相手に安心を届けます。



**「触れる」**

相手をつかんでしまうと、そんなつもりはなくても「この人は私の自由を奪っている、ひどい人だ」と相手に感じさせてしまいます。触れる時にはまず相手の手を下から支えることで優しさを伝えます。



**「立つ」**

体を起こすことも、その人らしさを保つために大切です。1日20分立つ時間を作れば、寝たきりを予防できます。歯磨きや着替えは立って行う、食卓まで歩くなど、少しずつ立つ時間を作って、合計20分を目指します。



**介護の技術 2: 認知症の人に確実に情報を伝える6つのヒント**

**会いに行く時は、どこでも必ずノック**

「私がこれから会いに行きますよ」と音で予告をすることが、良い時間を共に過ごす幕開けになります。「あなたの空間と時間を尊重しています」と伝えるための技術です。障子でも、ふすまでも同じです。



**いきなり用件を切り出さない**

介護をするときは、いきなり用件を切り出しません。まずは「あなたのことを大切に思っている」ことを伝え、良い関係を結びます。そうすることで、介護を受け入れてもらいやすくなります。



**返事を3秒待つ**

認知症になると、情報を分析して理解するまでに時間がかかるようになります。何か質問をしたときは、3秒くらい返事を待ちましょう。待つこともとても大切な介護の技術です。



**正面から近づく**

認知症の人は視野の外から声をかけても自分に向けられていることに気が付きません。「私がここにいますよ」と伝えるために、まず正面から近づいて相手の視線をとらえます。



**何度も尋ねるときには、楽しい気分になり替える**

何度も同じことを尋ねるときは、実は不安な気持ちを質問で表現しているのかもしれませんが、そんなときは質問と関連がある、別の楽しいことを提案してみることも解決策になります。



**「見る」「話す」「触れる」が伝えるメッセージを一致させる**

介護をするときは、私たちが伝えるメッセージに矛盾がないように一致させます。優しく話していても、腕をつかんでしまっては相手を混乱させ、不安にさせてしまいます。





# 加齢性難聴の聞こえ方

静岡市HPより抜粋

加齢性難聴は「小さな音が聞こえにくく」、  
「言葉がはっきり聞き取りづらく」なります

いるんだけど…



聞こえては

高い周波数から聞こえにくくなるのが特徴です。そのため、まず、ドアのチャイム音や体温計の音が聞こえにくくなります。

また、言葉では、母音よりも子音が聞き取りづらくなり、力行、サ行、タ行、ハ行等の聞き間違いが増えてしまいます。

その結果、「しゃべっているのはわかるけど、何と言っているのかわからない。」となり、必要以上にテレビの音量を大きくしたくなります。

さらに難聴が進行すると、大きな声でも会話が聞き取れない、音源がどこにあるかわからない、といった症状も生じることがあります。

資料5

吉永美子議員

## 難聴が引き起こすかもしれないリスク

高齢者の難聴は、聞こえにくさから会話、コミュニケーションが困難となり、さらに社会とのつながりが希薄となることが認知症や社会的孤立の要因となることがわかっています。

難聴を早期に発見し、支援を行うことで、聞こえにくさから起こるかもしれない症状を予防し、より良い「聞こえ」で健康的な人生を楽しみましょう。



## 聴覚は一生のパートナーです

「年だから仕方がない」と思わず、健康的な人生を楽しむため、自分の「聞こえ」に関心を持ってみませんか。

静岡市では、令和6年度から、高齢者の「聞こえ」のチェックと、その参加者への補聴器購入費用の助成を実施します。

詳しくは、静岡市ホームページをご覧ください。



静岡市 難聴

検索

静岡市保健福祉長寿局健康福祉部 高齢者福祉課

電話 054-221-1586 E-mail:koureifukushi@city.shizuoka.lg.jp

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。 令和6年8月 作成



**世界初**  
軟骨伝導式集音器

cheero オトカルティ<sup>®</sup> MATE

集音器と軟骨伝導イヤホンのセット 「話し声が大きく聞こえる」集音器専用高性能チップ搭載

**耳の遠いお客様との対話をサポート**



**Otocarti MATEの特長**

**従来の骨伝導に比べて音漏れが格段に少ない**

骨伝導と比較すると、特に低音域の音漏れは15～20デシベル少なく、周囲に音が漏れる心配がありません。

**ひと拭きでキレイになるボール型イヤホン**

球形のイヤホン部分は、通常のイヤホンのような穴や凹凸がないため、耳あかなどが溜まることなく、お手入れも簡単です。

**独自のイコライジング技術で声を強調**

集音器の多くは、すべての音を増幅させるため、不要な雑音まで大きくなります。本商品は、雑音を除去する独自技術により話し声が大きく聞こえます。

**長時間使用可能な大容量バッテリー搭載**

約10時間ご使用いただけるため、頻りに充電する必要はございません。また、繰り返し充電できるバッテリーを搭載しているので、乾電池を交換する手間は不要です。別売り専用バッテリーを併用すれば、最大75時間ご使用いただけます。

**ハウリング防止機能**

ハウリング音(ピーピー音)を抑制し、不快感を軽減します。



カラーは薄藤(パープル) と松葉(グリーン) の2色展開



本製品は、株式会社CCHサウンドから許諾された特許を使用しています。